

有限会社小林精螺製作所

Pick Up!

平成27年度

事業計画名

複合加工及び加工径拡大のため旋盤複合加工機を導入し顧客の要求に応え、事業拡大を図る

概要

小径NC旋盤加工を事業としてきたが、顧客の複合加工及び加工径の拡大の要求に応え、最新設備導入を実施し、高度技術獲得と新規開発品等の市場開拓を行い、事業の拡大を図る。

分類

＜対象類型＞ ものづくり技術

精密加工

＜事業類型＞ 一般型

成果

最新の旋盤複合加工機を導入したことにより、加工径拡大を可能にし、加工時間の大幅な短縮に成功。

内径交差穴の面取りにも成功し、手動で行っていたバリ取り作業の省略を実現。

今まで以上の複雑な部品加工が可能となったため、これまで辞退していた高度な部品加工にも挑戦できるようになった。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

有限会社小林精螺製作所（長野市）

「バリ取り」の課題をクリアし、加工径の拡大、高度複合形状品、時間短縮、コストダウンを実現。

ろくろもNCも。新旧技術が一体に

「精螺（せいら）」とは、精密なネジの意味。小林精螺製作所は1956年、電気関係のネジの旋盤加工事業で創業しました。「ろくろ旋盤で簡単なものを作っていました」と小林哲三社長。その社名に同社の歴史が刻まれています。



直径25ミリ以下の金属部品が主体

以来、ろくろ旋盤から自動旋盤、NC加工機と最新の機械設備を導入し、より精度の高い金属切削加工技術を追求。電気・機械部品や自動車・建設機械・産業機器など、直径25ミリ以下の小型部品の高精度加工に実績を上げてきました。工場内はNC加工機を中心に設備がぎっしり。一方で創業当時からのろくろ旋盤も現役で稼働し、新旧技術が一体となって同社の品質を実現しています。

ところがリーマンショック以降、主要顧客だった大手企業の海外生産シフトにより受注が激減し、業績が悪化。その後業績は何とか持ち直しましたが、必死の営業活動を強いられました。この経験から、加工径の拡大、高度複合形状品の加工、そしてコストダウンと納期前倒しなどの厳しい顧客要求に応え、さらに新規顧客獲得も図るため、最新設備の導入と技術高度化を図ることが課題となりました。

「バリ取り」の後工程の削除実現



7軸タイプの最新鋭複合加工機

「量産品はすべてNCで加工していますが、穴開け加工時に出るバリが永遠のテーマ」と小林社長。同社では従来、小さな部品一つ一つ手作業でバリ取りを行っています。「例えば、穴が4つある部品を月1千個作る場合、バリ取りを手作業で4千回しなければならない。

その手間と時間、コストたるや大変です」

そこで同社は平成27年度ものづくり補助金を活用し、直径32ミリまで加工できる7軸タイプの最新鋭複合加工機を導入。加工時間を大幅に短縮し、後加工（バリ取り）工程を削除することが可能になりました。価格競争力の強化と生産性の向上を実現し、今後さらに複雑加工品や難削材部品の取り込みも図っていく計画です。

「加工径は広がりましたが、小さい部品に特化していく基本は変わりません。今回導入した機械で地道に実績をつくりつつ、ゆくゆくはさらに複雑な形状や難削材の加工ができる機械を導入したいと思っています」

そう話すのは社長の子息、小林圭吾専務。最新のNCはもちろん、ろくろ旋盤も使いこなす、祖父、父親と三代続く金属加工技術者です。「工場が設備で手狭になり効率が良くない。もう少し広いと



NC加工機でぎっしりの工場

ころにという「野望」はあるんですが…」そう話す小林専務の表情にもどこか余裕が感じられます。



有限会社小林精螺製作所

代表 代表取締役 小林哲三
創業 1956（昭和31）年4月
資本金 300万円 従業員数 6名
本社 長野市大豆島5060-6
TEL.026-221-0546 FAX.026-221-5144
事業内容 金属切削加工

